



# データブローカーの管理

## Cloud Manager

Ben Cammett  
May 06, 2021

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/us-en/occm/task\\_sync\\_managing\\_data\\_brokers.html](https://docs.netapp.com/us-en/occm/task_sync_managing_data_brokers.html) on May 12, 2021. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次

データブローカーの管理 .....	1
データブローカーグループ .....	1
新しいデータブローカーを追加 .....	1
データブローカーの構成を表示します .....	3
データブローカーをグループから削除 .....	4
グループの名前を編集します .....	4
データブローカーの問題に対処 .....	5
データブローカーグループのユニファイド構成を定義する .....	5
オブジェクトストレージのメタデータをコピーするようにデータブローカーを設定 .....	6

# データブローカーの管理

データブローカーは、ソースの場所からターゲットの場所にデータを同期します。作成する同期関係ごとにデータブローカーが必要です。データブローカーを管理するには、新しいデータブローカーをグループに追加し、データブローカーに関する情報を表示します。

## データブローカーグループ

データブローカーをグループ化すると、同期関係のパフォーマンスを向上させることができます。

### データブローカーの数の確認

多くの場合、1 つのデータブローカーで同期関係のパフォーマンス要件を満たすことができます。そうでない場合は、データブローカーをグループに追加することで、同期パフォーマンスを高速化できます。ただし、まず、同期のパフォーマンスに影響を与える可能性のある他の要因を確認する必要があります。 ["複数のデータブローカーがいつ行われるかを確認する方法については、こちらをご覧ください は必須です"](#)。

### グループは複数の関係を管理できます

データブローカーグループは、一度に 1 つ以上の同期関係を管理できます。

たとえば、次の 3 つの関係があるとして。

- 関係 1 はデータブローカー A を使用します
- Relationship 2 では、データブローカー B が使用されます
- Relationship 3 では、データブローカー A を使用します

新しいデータブローカー（データブローカー C）をグループに追加するため、関係 1 のパフォーマンスを高速化したいと考えています。データブローカー A は関係 3 の管理にも使用されるため、グループ内に 2 つのデータブローカーを配置することで、この関係のパフォーマンスも向上します。

### 新しいデータブローカーのみ

新しいデータブローカーはグループにのみ追加できます。既存のデータブローカーをグループに追加することはできません。

## 新しいデータブローカーを追加

新しいデータブローカーを作成するには、いくつかの方法があります。

- 新しい同期関係を作成する場合

["作成時に新しいデータブローカーを作成する方法について説明します 同期関係"](#)。

- [ データブローカーの管理 ] ページで、[ 新規追加 ] をクリックします データブローカー \*。新しいストレージにデータブローカーを作成します グループ

- 新しいを作成して、[ データブローカーの管理 ( Manage Data Brokers ) ] ページからアクセスします 既存のグループのデータブローカー

知っておくべきこと

- 暗号化された同期関係を管理するグループにデータブローカーを追加することはできません。
- 既存のグループにデータブローカーを作成する場合、データブローカーはオンプレミスのデータブローカーであるか、同じタイプのデータブローカーである必要があります。

たとえば、グループに AWS データブローカーが含まれている場合、そのグループに AWS データブローカーまたはオンプレミスのデータブローカーを作成できます。Azure データブローカーと GCP データブローカーは、同じタイプのデータブローカーではないため、作成できません。

新しいグループにデータブローカーを作成する手順

1. [ \* 同期 ] > [ データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. [ 新しいデータブローカーの追加 ] をクリックします。
3. プロンプトに従ってデータブローカーを作成します。

ヘルプについては、次のページを参照してください。

- ["AWS にデータブローカーをインストールする"](#)
- ["Azure へのデータブローカーのインストール"](#)
- ["GCP へのデータブローカーのインストール"](#)
- ["Linux ホストへのデータブローカーのインストール"](#)

既存のグループにデータブローカーを作成する手順

1. [ \* 同期 ] > [ データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. アクションメニューをクリックし、\* データブローカーの追加 \* を選択します。



3. プロンプトに従ってデータブローカーを作成します。

ヘルプについては、次のページを参照してください。

- ["AWS にデータブローカーをインストールする"](#)
- ["Azure へのデータブローカーのインストール"](#)
- ["GCP へのデータブローカーのインストール"](#)
- ["Linux ホストへのデータブローカーのインストール"](#)

# データブローカーの構成を表示します

データブローカーの詳細を確認することで、ホスト名、IP アドレス、使用可能な CPU や RAM など特定することができます。



Cloud Sync では、データブローカーに関する以下の詳細が提供されています。




- 基本情報：インスタンス ID、ホスト名など
- ネットワーク：リージョン、ネットワーク、サブネット、プライベート IP など
- ソフトウェア：Linux ディストリビューション、データブローカーのバージョンなど
- ハードウェア：CPU と RAM
- 設定：データブローカーの 2 種類の主なプロセスの詳細（スキャナと転送元）



スキャナはソースとターゲットをスキャンし、コピーする対象を決定します。転送元は実際のコピーを行います。ネットアップの担当者は、これらの構成の詳細を使用して、パフォーマンスを最適化するための推奨アクションを提示することが

## 手順



1. [ \* 同期 ] > [ データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. をクリックします  をクリックして、グループ内のデータブローカーのリストを展開します。
3. をクリックします  をクリックしてください。


 tanyagcp0212  

2  
Data Brokers

968.5 B/s  
Transfer Rate




1  
Relationships

 1 Active  1 Unknown  
Data Brokers Status

 tanyagcp0212

GCP

Transfer Rate: 968.5 B/s

 Active  

Information	5fc766b3d3e3664b9e116... Broker ID	288871247573080556 Instance ID	tanyagcp0212-mnx-data-... Host Name	cloudsync-dev-214020 Project ID
Network	us-east1-b Region	default Network	255.255.240.0 Subnet	10.142.0.37 Private IP
Software	linux Linux Distribution & Version	1.5.4 Vault Version	14.15.1 Node Version	1.3.0.18650-73f960d-integ Data Broker Version
Hardware	4 Available CPUs	62.22 MB Available RAM		
Configuration	50 Scanner Concurrency	4 Scanner CPUs	50 Transferrer Concurrency	4 Transferrer CPUs


# データブローカーをグループから削除

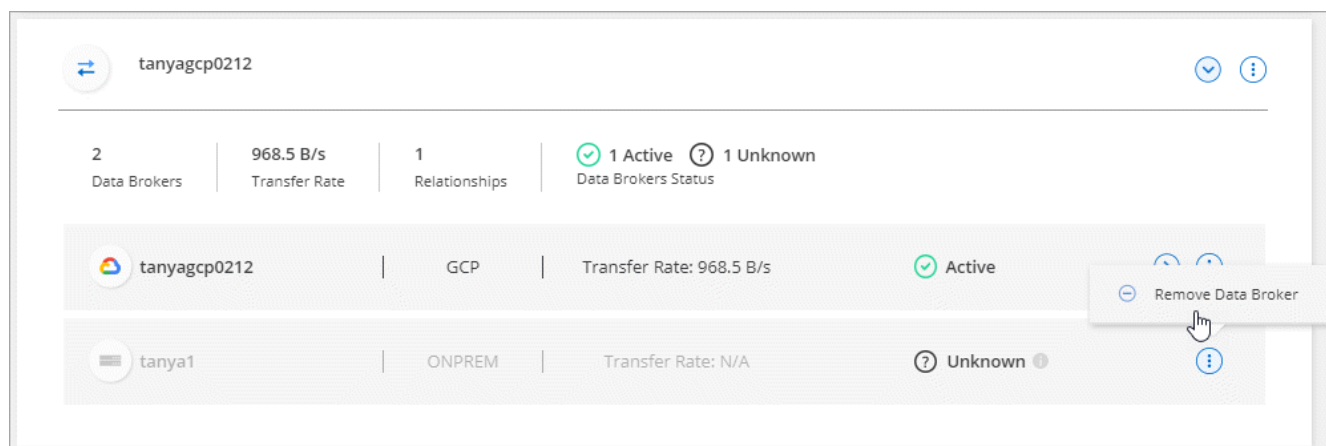
データブローカーが不要になった場合や初期導入に失敗した場合は、グループから削除することができます。この操作では、データブローカーが Cloud Sync のレコードから削除されます。データブローカーとその他のクラウドリソースについては、手動で削除する必要があります。

知っておくべきこと

- グループから最後のデータブローカーを削除すると、Cloud Sync によってグループが削除されます。
- グループを使用している関係がある場合、そのグループから最後のデータブローカーを削除することはできません。

手順

1. [ \* 同期 ] > [ データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. をクリックします  をクリックして、グループ内のデータブローカーのリストを展開します。
3. データブローカーのアクションメニューをクリックし、\* データブローカーの削除 \* を選択します。



4. [ データブローカーの削除 ] をクリックします。

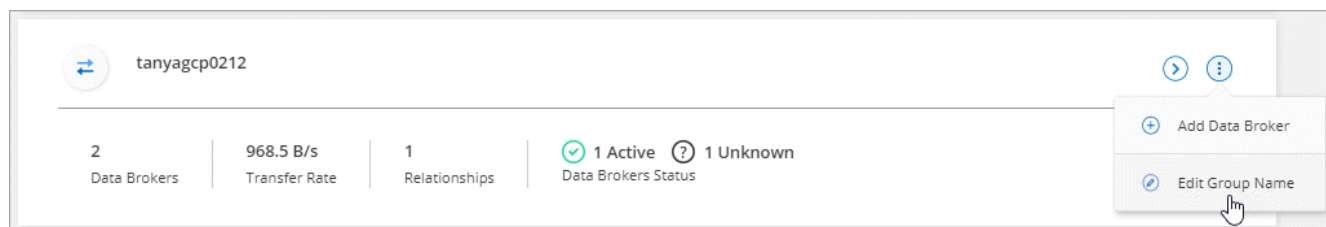
Cloud Sync がデータブローカーをグループから削除

## グループの名前を編集します

データブローカーグループの名前は、いつでも変更できます。

手順

1. [ \* 同期 ] > [ データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. アクションメニューをクリックし、\* グループ名の編集 \* を選択します。



3. 新しい名前を入力し、\* 保存 \* をクリックします。

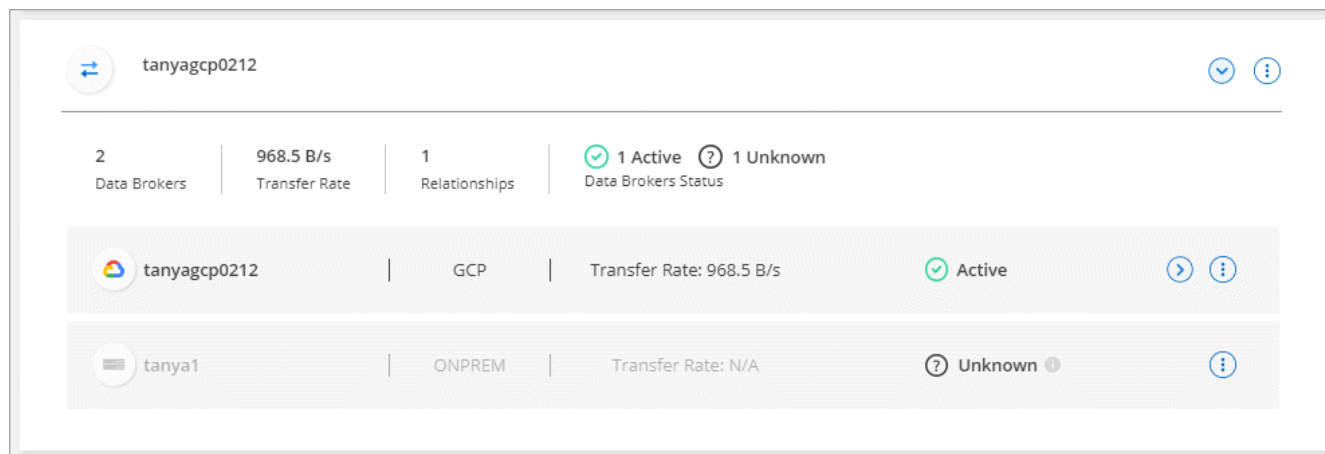
Cloud Sync によってデータブローカーグループの名前が更新されます。

## データブローカーの問題に対処

Cloud Sync では、問題のトラブルシューティングに役立つ各データブローカーのステータスが表示されます。

手順

1. ステータスが「Unknown」または「Failed」のデータブローカーを特定します。



2. の上にカーソルを置きます アイコンをクリックして失敗の理由を確認してください。
3. 問題を修正します。

たとえば、オフラインのデータブローカーを再起動するだけで、初期導入に失敗した場合はデータブローカーの削除が必要になることがあります。

## データブローカーグループのユニファイド構成を定義する

同期プロセス中に同期関係でエラーが発生した場合は、データブローカーグループの同時実行を統合すると、同期エラーの数を減らすことができます。グループの設定を変更すると、転送速度が遅くなるため、パフォーマンスに影響する可能性があります。

自分で設定を変更することはお勧めしません。設定を変更するタイミングと変更方法については、ネットアップに相談してください。

手順

1. [ \* データブローカーの管理 \* ] をクリックします。
2. データブローカーグループの [ 設定 ] アイコンをクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更し、\* Unify Configuration\* をクリックします。

次の点に注意してください。

- 変更する設定を選択できます。4 つすべてを一度に変更する必要はありません。

- 新しい構成がデータブローカーに送信されると、データブローカーは自動的に再起動し、新しい構成を使用します。
- 変更が反映されて Cloud Sync インターフェイスに表示されるまで、 1 分程度かかる場合があります。
- データブローカーが実行されていないと、Cloud Sync がデータブローカーと通信できないため、設定が変更されません。データブローカーが再起動すると設定が変更されます。
- ユニファイド構成を設定すると、新しいデータブローカーでは自動的に新しい構成が使用されます。

## オブジェクトストレージのメタデータをコピーするようにデータブローカーを設定

デフォルトでは、Cloud Sync はオブジェクトストレージメタデータをコピーします ["同期関係にはいくつかのタイプがあります"](#)。ただし、次のタイプの同期関係間でオブジェクトストレージのメタデータをコピーする場合は、データブローカーを設定する必要があります。

- Amazon S3 → Amazon S3
- Google Cloud Storage → StorageGRID
- Google Cloud Storage → IBM Cloud Object Storage
- Google Cloud Storage → Amazon S3

### Amazon S3 から Amazon S3 へのステップ

1. データブローカーホストにログインします。
2. local.json を次のように変更します。

```
{
  "protocols": {
    "s3": {
      "copy-metadata-from": true
    }
  }
}
```

3. データブローカーを再起動

```
PM2 stop all PM2 start all
```

### Google Cloud から StorageGRID、IBM、Amazon S3 への移行の手順

1. データブローカーホストにログインします。
2. local.json を次のように変更します。



```
{
  "protocols": {
    "gcp": {
      "copy-metadata-from": true
    }
  }
}
```

### 3. データブローカーを再起動

PM2 stop all PM2 start all

## Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

## Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.